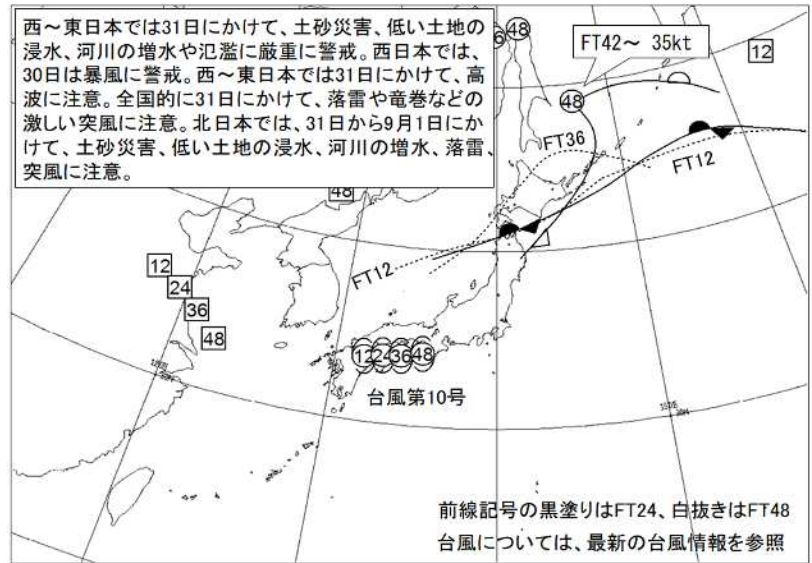


1. 実況上の着目点

- ① 台風第10号は、熊本県付近を北北東進。九州では台風本体の発達した雨雲の影響で激しい雨が降っている所がある。また非常に強い風が吹いて、うねりを伴いしけとなっている所がある。九州南部では30日0時までの72時間雨量が800mmを超える記録的な大雨となっている所がある。
- ② 西日本や東日本太平洋側では、台風周辺及び太平洋高気圧の縁辺の下層暖湿気の影響で、大気の状態が非常に不安定となっており、雷を伴って非常に激しい雨が降っている所がある。



主要じょう乱解説図

- ③ 前線が日本海から東北地方を通り、千島の東にのびている。前線に向かう下層暖湿気の影響で、大気の状態が不安定となっており、北日本では雷を伴って強い雨を解析。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の台風は、31日にかけて西日本を東進する見込み。台風周辺では、引き続き非常に強い風が吹き、海上はうねりを伴いしけとなる所がある。西日本では30日は暴風に警戒。西～東日本では31日にかけて高波に注意。
- ② 台風本体や台風周辺及び太平洋高気圧縁辺の下層暖湿気の影響で、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った非常に激しい雨や局地的には猛烈な雨が降り大雨となる所がある。西日本や東日本太平洋側を中心に31日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に厳重に警戒。落雷や竜巻などの激しい突風に注意。九州北部地方では30日日中にかけて、四国地方では30日夜にかけて、東海地方では30日午前中にかけて、線状降水帯が発生して大雨災害の危険度が急激に高まる可能性がある。また、台風の動きが遅いため、総雨量が多くなるおそれがあることに留意。
- ③ 31日は、北海道付近を500hPaで-12℃以下の寒気を伴ったトラフが東進。対応する低気圧が31日夜にまでに、前線上のオホーツク海で発生。北日本では低気圧や前線に流れ込む下層暖湿気の影響で、大気の状態が不安定となり雷を伴った激しい雨が降る見込み。北日本では、31日から9月1日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、落雷や突風に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。台風については、西～東日本を東進する際の子報の不確実性が大きい。最新の台風情報を参照。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ①雨量(06時からの24時間)：四国400、東海300、近畿200、中国・九州北部180、関東甲信150、東北・伊豆諸島・九州南部・120mm。②波浪(明日まで)：四国6、東海・近畿・九州北部・九州南部5、関東・伊豆諸島4、東北3m。③高潮(明日まで)：西日本で警報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「台風第10号に関する情報(総合情報)」を5時頃に発表予定。